

ビオトープだより第 6 3 号

会員・BA より ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 放棄されて 10 年以上、実家の里山の手入

副会長、北海道・東北地区委員長、主席 B A、(株)エコリス 佐竹一秀

ため池浚渫時の底泥

一昨年夏に実施した、実家里山のため池の浚渫をビオトープだより第 61 号(2026 年 2 月)に投稿しました。その時に底泥をため池そばのくぼ地に投棄(埋立て)しました。右の写真がその時の状況です。1 か月程すると水分がだいぶ抜け、表面にひび割れが見られ、踏み入れてもわずかに沈みこむ程度でした。その時、植物の小さな芽生えも確認しました。底泥内に埋もれていた植物の種子(埋土種子)が発芽したものと思います。



埋立地の経過観察

貴重種が出てくることを期待しつつ、経過観察をしていました。右の写真は埋立て 2 ヶ月後、8 月 1 日撮影です。20 cm ほどに成長したヤナギや他の植物も見られました。植物の識別力が乏しいので、写真撮影して社内を確認してもらいました。



右下の写真は埋立地の 3.5 ヶ月後(9/14)の状況です。埋立て直後の状況からは想像できないくらい、植物が繁茂しています。まず目につくのがヤナギ類(主にタチヤナギ)です。ヤナギの仲間はずり池周辺にたくさんありますので、そこから埋土種子になったと思います。なかには 1 m 以上の高さになっているものもありました。この場所がヤナギ林になっても困りますので、ヤナギ類は排除することにしました。簡単に引き抜けると思ったのですが、根をしっかりと張っていて、引き抜けません。カマや剪定バサミを使って根元から一本一本切りました。



埋土種子から発芽したと思われる種

左側上の写真はヤナギ類です。右側上の写真、ハート形の葉はコナギですが、見つけた時は一瞬ミズアオイか？と思いました。少し小さく、根元付近に青紫の花をひっそり咲かせました。下の写真はヘラオモダカとオモダカです。これらは水田や水田周りの湿地環境に生育している種です。ため池周辺の放棄水田の草刈り時には見ていませんので（見逃している可能性もあるのですが）水田耕作時に生育していたものと思います。



その他の種としてはガマ、イグサ、ハリイ、トキンソウ、オオイヌタデ、チョウジタデ、アメリカゼナ、アオガヤツリ、タマガヤツリ等が確認できました。

貴重種「タコノアシ」も出てきました！

ヤナギ類の切除作業中に見つけたのが貴重種「タコノアシ」です。環境省のレッドリスト2020、宮城県レッドリスト2024でいずれもNT（準絶滅危惧種）として掲載されています。河川下流域・河口域の湿地、水田周辺などに生育していて、それらの環境が減ったことで絶滅が危惧されています。この年は2株確認しました。ため池底泥の埋土種子から発芽したと思われます。ため池の下流側の水田放棄地に湿地環境を作り、そこに移植しました。移植は成功し株数も増え、花を咲かせ実を付けました。また、去年も同じ場所でさらに1株確認しています。

埋立地の下層にも埋土種子が眠っているはずですので、表土をかく乱しながら今後も観察を継続したいと考えています。



以上